

寝屋川民報

発行 日本共産党 寝屋川市議員団
824-1181(内線2399)
FAX 824-7760
Email:jcpncc@cc-net.or.jp
No. 2487

太田 とおる 高柳2-49-2
TEL 826-1664
田中 ひさ子 国松町10-36
TEL 823-1714
中林 かずえ 宝町4-33
TEL 839-2289
中谷 光夫 高宮2-19-5
TEL 823-5947
松尾 信次 下木田町12-6
TEL 821-7427

9月議会終わる 党議員団 あ・ひ園の指定管理者制度に反対



寝屋川市立あかつき・ひばり園 (定員120人)

保護者らと協議のさなかの 条例提案は認められない

25日、9月議会最終日、日本共産党は、3議案について反対討論をおこないました。以下、要旨です。

療育・自立センター

条例の全部改正については、1973年の設立から40年間、公設公営で運営してきたあかつき・ひばり園を来年4月から、指定管理者に委ねるものです。

いちばんの問題は、あかつき・ひばり園保護者や関係者との協議の最中に9月議会に提出されたことです。

指定管理者制度の導入という事業の根幹に関わる重大な問題を、保護者、関係者の合意

なしに議会に提出することは許されません。6月議会には、あかつき・ひばり園の公設公営での継続を求める請願署名が9万筆近く

市がすべてに

責任をはたすこと

第2は指定管理者制度そのものの問題です。指定管理者制度導入のねらいが、市の財政負担の削減、人件費の引き下げであり、そのことよって療育には欠かせない専門職の職員を安定的に配置できなくなるからです。市職員を派遣しての

寄せられました。市はこの市民の声を聞くべきであり、初めに来年4月実施ありきの進め方は容認できません。

引き継ぎ、法人の専門職などの人材確保について長期的に療育水準の維持向上がはかれるのか、センター的役割をはたせるのかなど、解決すべき多くの問題があります。市がすべてについて責任をはたすことが第一であることと指摘します。

基幹支援センターの設置

具体化をおこなうべき

第3に、保護者関係者の要請書に関わって、①市は保護者、関係者と引き続き協議を十分行うこと。その意見を十分反映すること。②18才までの障害児支援を担う、基幹支援センターの設置の具体化

をおこなうことを求めます。指定管理者の指定については、あかつき・ひばり園の指定管理者として、社会福祉法人すばる北斗を指定するものです。指定管理者制度の導入について保護者・関係者の合意が得られていない中で提案であり賛成できません。

は、日本共産党5人と無所属議員1人が反対し、賛成多数で可決されました。

一般会計補正予算については、債務負担行為補正として、①小学校給食で新たに3校、民間委託をふやすことなどが計上されていることから、反対しました。

◆ ◆ これら2議案について

◆ ◆ 討論の全文は党議員団ホームページをご覧ください。

◆ ◆ 家族での介護が難しいという相談が続いてあります。就労や身体が悪くて親の介護がしなくていけない状況があります。例え、骨折で入院したお母さんを1人の家にお母さんを探して退院させられないので施設を探している。田舎で1人暮らししている80才の母に限界がきているが、すぐに施設に入れない。この2人も女性で、年金は月10万円弱、認知症がすすんでいるように、家族は居宅介護が使えたとしても、1人にできないと判断しています。▼18日、厚労省の社会保障審議会特別養護老人ホーム入所者を要介護3以上に限定して、要介護1と2を外す案が提示されました。とんでもないことです。寝屋川市では、特別養護老人ホームの待機者653人(2011年度)のうち、要介護1、2が134人、20%強で入所理由は「介護者不在、介護困難」「認知症などによる判断能力の低下」などです。今受けている相談そのものです。▼政府が後押ししている「サード」は、月平均13万円に加えて介護保険利用料の負担がかかります。高齢者や家族は必要に迫られて特別養護老人ホームに入所申し込みをしていきます。国の責任で施設整備が緊急に求められます。

視界

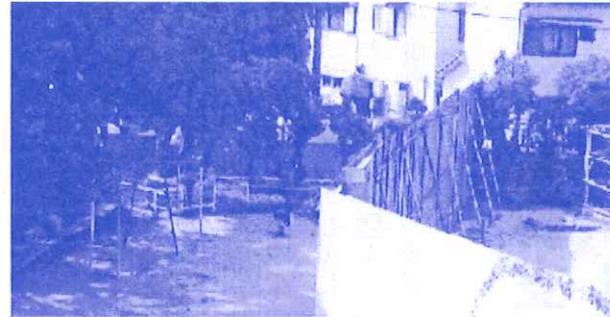
家族での介護が難しいという相談が続いてあります。就労や身体が悪くて親の介護がしなくていけない状況があります。例え、骨折で入院したお母さんを1人の家にお母さんを探して退院させられないので施設を探している。田舎で1人暮らししている80才の母に限界がきているが、すぐに施設に入れない。この2人も女性で、年金は月10万円弱、認知症がすすんでいるように、家族は居宅介護が使えたとしても、1人にできないと判断しています。▼18日、厚労省の社会保障審議会特別養護老人ホーム入所者を要介護3以上に限定して、要介護1と2を外す案が提示されました。とんでもないことです。寝屋川市では、特別養護老人ホームの待機者653人(2011年度)のうち、要介護1、2が134人、20%強で入所理由は「介護者不在、介護困難」「認知症などによる判断能力の低下」などです。今受けている相談そのものです。▼政府が後押ししている「サード」は、月平均13万円に加えて介護保険利用料の負担がかかります。高齢者や家族は必要に迫られて特別養護老人ホームに入所申し込みをしていきます。国の責任で施設整備が緊急に求められます。

夏休みの工事、市民との約束

12日、中林議員は、認定こども園の新園舎について一般質問しました。

市の新園舎建設計画で、園舎自らの影で園庭に長い影を落とすことになったのは、こどもの日当たりより首脳会議で決めた方針を優

認定こども園 園庭に長い影 建設場所決めた市の責任重大



園庭に工事壁が設置された市立池田幼稚園

先した市の責任であり、総括して反省するべきだと主張しました。さらに、幼稚園児の安全確保のため、夏休みに入ってから始める

としていた新園舎建設工事が未だに工事車両の搬入路さえできていないことについての具体的な説明と保護者・地域への説明を求めま

した。市は、13日に保護者に説明すると答弁しました。

市民共同発電設置は

市民と行政の共同で

中林議員は、原発については、福島原発の放射能汚染水漏れの問題にふれ、国に対し、
①原発ゼロの方針を明確にし、原発の再稼働推進はやめること。
②寝屋川市として、原発ゼロの立場を明らかにすること。などを求め

ました。再生可能エネルギーの取り組みについては、本市で「自然エネルギーねやがわ市民の会」「NPO法人ねやがわ市民共同発電所」などが活動を始めていることから、
①市民参加で、寝屋川市のビジョンを策定すること。
②市内での市民共同

発電設備の設置について、市の支援策を検討すること、市内での導入に取り組み市民団体との共同をすすめること。
③避難所の予備電源として、太陽光パネルなどの設置費用が補助される、大阪府の「グリーンニューデール基金」を活用すること。などを求めました。

トップダウンやめて

市民の声聞く市政に



中林議員は、市民の

声を聞き市政に反映す

る市政運営について、以下、質しました。

2つの問題(本市で初めての認定こども園の創設、あかつき・ひばり園の指定管理者制度の導入)についての、市としての決め方、進め方などについては「市民が主役のまちづくり」をうたった

「寝屋川市みんなのまち基本条例」に反している」と主張しました。

2つの問題で共通している、重要なことを、首脳会議で決め、市民意見を言っても聞かない、見直しや変更さえしないトップダウンのやり方はやめるべきです。

市民の意見を聞いて、市民の意見を反映させる当たり前の市政運営に転換すべきです。



中林 かずえ

池田南町の私の市政相談所のお隣の喫茶店「木かげ」が閉店しました。

この喫茶店は、私が独身で大利町に住んでいた頃からあったお店でした。

自由な雰囲気のお店でしたので友人との待ち合わせ、夫とも行ったことがありませんでした。

市会議員になって事務所で、たまたまお隣になりました。

19日最後の日の朝、マスターが「閉店を知らないお客さんが来られるかもしれないので今日は昼過ぎまで開けておく」とのことでした。

厚生常任委員会を終えて短時間でしたが、花や植木が好きだったママを偲んでアイスコーヒーをいただきました。

そして忘れないように植木を一鉢いただきました。